

## 祝辞

本日卒業される二六九名の皆さん改めて

「卒業おめでとうございます」。

松本美須々ヶ丘高等学校同窓会会長の小林磨

史が本日諸用と重なり残念ながららご挨拶がで

きないため、わたくし副会長の吉田誠よりひ

とこと同窓会を代表してご挨拶をさせていた

だきます。

「山光澄我心」さんこう わがこころをすましむ さんこうとは「山」の「光」と書きます。朝焼けが雪をかぶった北アルプスの稜線を赤く染め、凜とした空気とともにその美しい山々の風景は私の心を清らかに澄ませる。という禅

語です。ここに住む皆さんならだれもが一度は  
見ている風景ではないでしょうか。

しかし、私たちが当たり前と思っているこの  
風景は、実は県外の人から見れば宝物なのです  
。わざわざお金と時間をかけてその風景を見に  
来るのです。この地域に住める喜びとこの地域  
の出身であることに誇りと自信を持つようではあ  
りませんか！。

今日卒業される皆さんはこれから地元で就職  
する人もいれば県外に出て進学する人も多いと  
思います。それぞれの進むべき道を見つけてし  
っかりと歩んでいってください。

私が高校を卒業し、進学した私学の4年制大  
学の入学式での学長の言葉が今でも忘れられま  
せん。その言葉とは「大学は白い卒業証書をも  
らうための4年間ではありません。自分の進む  
べき道が見つかったならいつでも学長室に中退  
報告に来てほしい。そのことがあなたにとって  
の最高の卒業なのです。その時私はあなた方を  
拍手をもって送りだします」と。

学長からの衝撃的な言葉をもらってしまった  
吉田少年はしばらく「どうすればいいのか」

と考える日々が続きました。学長の言葉の意  
味は高校を卒業してからの人生は自身の目標を  
しっかりととらえ、目標への結果を見つめ、自  
らそのひとつひとつに卒業という答えを出して  
いきなさいという意味だと理解しました。

結果、私自身は大学を4年で卒業しましたが  
、地域の情報を地域で地産地消したいという思  
いから創刊してまだ間もない、たった4千部の  
市民タイムスという新聞社に入社しました。赤  
字続きでいつつぶれてもおかしくない状態が長  
く続きましたが退職する42年後には7万部近  
い部数を有する新聞社に成長することができま  
した。

卒業生のみなさん、これからの人生はいろい  
ろな経験が目白押しです。今日の卒業を手始め  
に、自身の目、鼻、口、耳、肌のいわゆる五  
感を磨きあげ一つ一つの事例に納得のゆく「卒  
業」をする人生を歩み続けてください。

宝島社という出版社が発行する「田舎暮らし  
の本」の調査結果で長野県が19年連続で「移  
住したい都道府県ランキングで第一位に選ばれ

ています。大都市との近さと豊かな自然環境がその理由です。この地域がさらに持続可能な地域として発展できるよう、同窓会としてもこの地域で幅広く活躍する会員とともに活動を続けていきたいと思えます。

毎年6月には同窓会総会が開かれています。同窓生から聞こえる合言葉は「ああ美須々でよかった」という言葉です。皆さんの心のどこかにきつとあるこのことばをそれぞれが大切にしてい、同窓会でまた会おうではありませんか。会費を納めるだけが同窓生ではありません。在校生、卒業生そして同窓生みなで力をあわせて松本美須々ヶ丘高等学校をさらに盛り上げていきましょう。同窓会は皆さんのふるさとへの帰りを待っています。